

大野木グラウンドワークだより

平成 22 年 3 月 25 日 発行 NO 41

発行責任者 藤田 博、伊藤 晋

3 月 21 日 お彼岸の日に、未明の大雨は止みましたが、黄砂がすごくて西の空は曇ったまま、テレビでは「大阪市内の視界は 2 キロ」と伝えています。気象予報によりますと発達した低気圧により大気不安定で和歌山では風速 34.7m を記録、これは南からの強力な春一番かなと。

しばらくぶりで、雪の重みで竹、梅が倒れ持ち込まれた枯れ竹などの焼却処分ということでファイヤーサークルに大きな火の手が上がり政所公園に煙が立ち上がりました。

雨と雷にびっくりした「しいたけ」がたくさん出てきて、植栽の木々は芽を吹き出してきました。金柑、みかんの苗木は悲しくも雪の重みでポキポキ状態、でもプラム連中は平気でたくさん芽をつけています。ナツメとかオリーブは今のところ静かです。ピックリグミ、ブルーベリーもみんな元気な芽を吹き出しました。

達ちゃんはこまめに森の中の散らかった枝、荒れている竹林の整理をしてくれていて、ファイヤーサークルにどんどん運び込んで燃やしてくれたおかげで一面がきれいになりました。

間伐のヒノキ丸太を丸ノコで照寿さんがカットしていく、それを勝巳さんと晋さんがサンダーがけしていくという流れ作業。善次さんに点検いただき

休憩時には杏香ちゃんと実乃里ちゃんがスミコさんと茂登子さんに同行してお菓子とコーヒーを届けてくれました。吉田茂登子さんは今日から参加していただき新しく仲間が増えることはほんとにうれしいことです。

11 時には伊勢講に参加のため政信さんと義弘さんが切り上げ、その後もコースターづくりは続き本日の成果は約 70 個となりました。これはもう少し乾いた時に善次さんが自宅で達筆をふるっていただくことにお願いしました。

雨がきたかと思えば晴れてきて、どうもきつねの嫁入りの日のようです。

お昼は「ねぎのぬた」、取れたての「しいたけとよもぎのてんぷら」、愛ちゃんの「水菜の浅漬け」、紀美子さんの「つくしの佃煮、大根千切り煮」、洋子さんからの「そらまめ」の差し入れ、などなど春のご馳走に満腹。

弘聖君もきてくれて参加者は 16+3 人でした。

当ての話

当てになるか、当てにならいか、我々は日頃から無意識のうちに誰かの動きを当てにしている、自分自身も寝ても醒めても何となく流れに沿って「当て」を期待して、前提として生活しているフシがある。いや、確実に当てにして暮らしているのだ、電車は来る、電気は付く、飯は食える、トイレはある、ドッコイそれが、その当てが急死したり事故で時間に間に合わなかったり、飯がないといった当てが外れることがある。

ささいな事はチョコチョコある、しかし、おおきな事の当てだっていつ外れるかわかったものではない。そうなるとどうなる、まず、ショックがくる、それは人によって異なるであろうが、心が乱れる、行動できない、もしくは最適の選択判断が混乱し迷走することによって、次なるトラブルにつながってしまうことさえあるのでは。

で、これを逆から見ると自分は周囲から当てにされているのだから、小さくとも自分を取り巻く世界から当てにしている人から見ればそんなに簡単に当て外れを起こしてもらいたくないのであるから。

まずは常に当てに外れないように自分自身のリスクマネジメントをしっかりとすることです。世の中、宝くじには当たりませんが事故なり災害に当たる確率は相当に高いのであります。だから、その確率をいかに低くすることが出来るかであります。

という当てにされるか、当てにするかという取引の話ではなくて実は当ての意識が人のハート：精神構造とどう関わっているかという人間性、宗教性をめぐる問いに対峙した論理考証を試みたかったのですが、それはまたとして・・・

とりあえずは、四季の変化、春、花粉症、芽生えからくる動植物の動き、特に気持の高まり、植物にもあるそうですよ、気持ちに近いまだ未解明な物質ホルモンの発生メカニズムとやらが、要するに春になってきますと世の中、相当動きが活発になって参ります。グラウンドワークも大きく動いてほしいと願うのであります。今年はほたるシャトルバス観光客の接待、大野木っこたちの広場として、また柏原中学校生の体験教室として、いわばグリーンツーリズムの場として一皮むけた形になればと、で、ここで何を当てにするかであります。

当然の如く我々の仲間が元気でがんばっていけること、これこそ誰もが互いに当てにしていることです。メンバー同互いに誰もが寸分たがわずとはいきませんが大筋のところは当てにして当てにされながらやっていきたいと思えます。

ここまできて、また、そうです人間は感情の動物でありますから自分の感情の中での葛藤はよくあることで、この領域で当てと当てが交錯していわば仮想ゲームとしてイメージが読み込まれていきます。そうすると、こういうとあーなるか、こーなるのはまずいかなどなどといった読み解きをする人しない人によって出てくる言葉が変わります。結果荒っぽくなったり、やわらかすぎてよくわからずその真意が伝わらなかつたりします。

ですからやりとりはポンポンと本音を吐き出すことでさらりとやっていくのが効率が一番です。いつも講釈だけで何から何まで当てにしている小生ですヨロシク願います。

COP10 と里山

地球 46 億年の歴史に比較して、20 万年前に後発したホモサピエンスが生態系に与えたインパクトは大きくなり、あまりに短い期間に生態系が逆転したことをきっかけとして 1992 年国連環境開発会議がリオデジャネイロで開催され「多様な指標が多様な価値を守る」とした生物多様性条約が締結された。

IUCN レッドリスト 2009 によると 1/4 から 1/3 の種が絶滅に瀕していて、人為的な絶滅速度は自然状態の 100~1,000 倍ともいわれ次ぎの世紀までに鳥類の 12%、哺乳類の 25%、両性類の 32%が絶滅するとされている。ですから人類という種は生態系の中で一番の悪者であるとのこと。まだ仏教者はいいとしてキリスト系は自然征服を旨としてきたからとんでもない連中ということになる。

日本の自然は「秋津州豊葦原瑞穂国」であってトンボと豊かなヨシ原と水田の国であった。

人の営みが自然の豊かさを守ったのは「里山」

地域の宝物を読み解き次代に引き継ぐことが出来るか

人と自然の関係を再構築できるのは「里山」というフィールドにしかないように思えるが、里山の食彩を考える、水の流れから生き物を見るなどなどの試みから考える

名古屋で今年開かれる COP10 の中身は遺伝子から遺伝子という議論もあるだろうが、どうもいままでの様子を見てみると「里山」が中心議題になるような予感がします

何といても生態系は酸素や水、土壌、食糧、木材の供給、気温や湿度の調節、災害の軽減などの多くの「バランス機能のサービスを提供」してくれていて、その生態系サービスなるものが存在するからこそ我々は生きていられるのであって、

これがなくば砂漠か高山山脈の地で過酷な生活を余儀なくされ生存そのものが脅かされることになります。この地は琵琶湖が近くにあつて温度、湿度も適温に保たれ、かつ森林のもつ多様な恵みによって生活風土が古来より安定し人々の営みが営々と引き継がれてきたのであります。なかでも里山が果たしてきた役割は大きく今一度このことを振り返り視線を里山に転じてみる必要があると考えます。

そこで「里山」を日本のどの地域でも誰もが身近なフィールドとして参画できる仕組みを作る必要がありと・・・で実態を少し見ますと現状里山はどうなっていてどのように手を入れることが出来るかを考察すると、そのほとんどが個人所有で高齢化して誰も手をつけられない状況。徳性令でも発して住民の家屋から 1km の範囲は全て当該住民自治団体に管理運用を任せることとし、もってわが国の里山を整理し三世代～高齢社会への新たな施策とする国策を打ってみてはどうかと思うのであります、いかがでしょうか。

そうすれば、元来ひとが持ち続けている DNA が活性化して再び人々のやる気を起こさせ、もってこの悩み続ける国が救われることになるのだというシナリオが描けるのですが、

地震のお話

2010/02/27 午後 3 時半（現地午前 3 時半） すぎ南米チリ中部の都市コンセプション近郊でマグニチュード 8.8 の巨大地震が発生しました。チリでは 1960 年 5 月には観測史上で世界最大とされる M9.5 の激しい地震が起き、約 1 万 7 千キロ離れた日本にも約 22 時間後に高さ最大 5~6m の津波が到達。三陸沿岸などで計 142 人の死者、行方不明者を出しました。

今回の M8.8 は 2008 年 5 月 12 日中国・四川省の M7.9、2010 年 1 月 12 日ハイチの M7.0 の 100 倍を越す巨大エネルギーであります。

日本で想定されている東南海地震が個別発生で M8.1 前後、南海地震が M8.4 前後、同時発生では M8.5 前後と予測されています。

チリ地震は地球の裏側から丸一日かけて「遠地津波」が押し寄せてきました。まもなく起こるといふ想定内期間に入ってきた東海、東南海地震は当地にダイレクトに大きなエネルギーが加わる怖さを考えると、身近な備えについて今一度考える必要があります。

突然に地震のお話、？ 何かはわかりませんがいろいろな事柄が予測の範囲を超えて動いていく予感も若干しないではありません。

その中にやはり地震という項は外せないものがあるのかと

そこで地震のことをシリーズで少し考えていってみたいと思います

今回は **4 月 10 日（土）** です、お昼ご飯はお花見を予定しています

年度替わりで行事等も忙しいのですがよろしく願いいたします。

大野木グラウンドワークだより

NO41 平成22年3月21日(日)
曇り~小雨 黄砂



椎茸を沢山収穫しました



初収穫体験し早速天ぷらに変わりました



伊藤さん大雪で倒竹・倒木の処分を引き受け



松丸太の皮を剥き2cmの厚さに輪切りしサンダーで磨く作業



本日の作業はコースター作り



ホタル祭りのお土産作り



今日から吉田茂登子さんが初参加です。皆さんどうぞよろしくおねがいします。



公園内に咲いていた花



次回は4月10日(土)です